

令和3年度 自己改革への取り組み状況について

JA大北では、組合員・地域に愛され支持されるJAであり続けるため、将来を見据えた自己改革に取り組んでいます。

「自己改革」は、地域農業の繁栄と暮らしにJAがなくてはならない組織であることを目指す改革です。組合員・地域とともに一歩先のJAをめざし、令和3年度は「長期構想・(2019～2021)3カ年計画」のもと、下記の取り組みを行ってまいりました。

(1) 農業生産基盤の強化による産地の維持

○ ロボット芝刈り機など、農家向けにスマート農業関連の技術紹介・試験導入など支援を行いました。

○ 農家の農作業支援として、支所やセンター、直売所、ホームページで農作業求人情報を掲載し、求人情報の共有を図りました。また、JA長野県労働力支援センターが運営する農業求人サイトによるマッチングおよび1日単位の農業求人マッチングアプリ「デイワーク」を活用した求人支援を行いました。



デイワーク利用促進研修会

○ 大町市の農産物直売所「ええっこの里」で、「農ある暮らしサポート直売所」として、営農指導・就農・移住相談対応を行いました。

○ 中小規模農家・直売所出荷者などのコスト削減、作業の省力化と利便性を向上させるため、レンタル農機などリース機の推進を継続して行いました。



アスター出荷目揃え会

○ 高騰する燃料の支援として、春と秋に水稻農家向けに「燃料担い手支援」を実施し、軽油と灯油の価格割引を行いました。

○ 各農作物の時期に応じた、現地での栽培講習会、目揃え会などを管内各地で開催しました。

○ 「JA大北農業開発積立金」を活用し、直売所の新規出荷者や重点栽培品目における新規栽培者・栽培面積増反者への苗代の助成、機械等の貸し出しなどを実施し、園芸振興に努めました。

○ 農家所得増大のため、水稻春肥の予約注文による価格対応や生産資材購入の一部助成などを行いました。



ロボット芝刈り機実演会

○ インターネット上（ネットショップ・ふるさと納税）での農産物・農産物加工品販売による販売力強化、PRに努めました。

(2) 組合員と JA のつながり強化

○ 移動購買車を用いた山間地への生活用品・食料品の販売を行い、買い物弱者を無くし、安心して暮らせる地域づくりの貢献に努めました。

○ 移動金融店舗による、出向く体制での、貯金などの金融手続きを継続して行いました。(現在、八坂・美麻・中土・北小谷地区での巡回)

○ 准組合員に向けて情報誌の発行を行い、JA 自己改革の情報や JA 運営に関する情報などの発信を行いました。また、准組合員の意思反映に向けて、Web での利用者アンケートを実施しました。



准組合員向け情報誌の発行

○ こどもカフェや生活困窮家庭への食料支援活動（フードドライブ）として当 JA や女性部において、行政を通じ、食料品や飲料品などの提供を行いました。

○ 次世代を担う子どもたちに農業の大切さを知ってもらうため、JA 青壮年部によるチャイルドファーム運動（園児たちによる野菜の収穫体験など）を行いました。



青壮年部による子どもたちへの食育活動
(ジャガイモ収穫体験)

(3) 総合事業を支える JA 経営基盤の確立

○ 事業施設再編方針に基づき、事業効率化による収支改善を図るため、令和 4 年の施設再編に向け、整備を進めました。

○ 働き方改革への対応、労働生産性の向上、各職員の労働負担を軽減するため、仕事内容、繁忙期対応時の働き方の改善、各施設の営業時間の見直しなどを行いました。

○ 不祥事等の未然防止と事務統一による事務の正確性向上のため、適切な職場離脱を実施しました。

○ Web 会議環境の整備を行い、Web 会議への積極的な参加・開催を行ったほか、ペーパーレス会議システムの導入を行い、管理費の削減と環境保護につなげました。